＊＊

「海の生き物を守る会」メールマガジン　No. 94

2012.3.1（木）

うみひるも

Association for Protection of Marine Communities (AMCo)

Homepage：http://www7b.biglobe.ne.jp/~hiromuk/index.html

＊＊

「今月の海の生きもの」　リュウキュウフナムシ　*Ligia ryukyuensis*

「海に行くとゴキブリみたいなのがウロウロしているでしょ」と言われて、それがフナムシの事だと分かるのに少し時間がかかった。なるほど、ゴキブリのようなというのは、言い得て妙かもしれない。フナムシの仲間は節足動物甲殻綱の等脚目に属し、ダンゴムシに近い。海岸の岩の上を高速で走り回り、有機物や小さな海藻、動物の死体などを食べる雑食性で、海の掃除屋と言われる。沖縄のリュウキュウフナムシは、本州のフナムシと比べてやや小型だが、色彩は少し濃いめで、別種とされている。海に棲む等脚類が陸上に適応したもので、長い尻尾で鰓に海水を供給して呼吸する。水には入らない。

（沖縄県瀬長島にて　向井宏撮影）

＊＊

目次

「今月の海の生きもの　リュウキュウフナムシ」・・・・・・・・・・・1
１．　海の生き物とその生息環境に関するニュース・・・・・・・・・・・・2
２．　「海の生き物を守る会」の活動報告・・・・・・・・・・・・・・・・6
３．　「海の生き物を守る会」の活動予定・・・・・・・・・・・・・・・・8
４．　海の生き物に関する運動・行事・他の団体の情報・・・・・・・・・12
５．　きらめく動物たちの命と海　久保田信の白浜だより（その２０）・・・23
６．　事務局便り・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・24
７．　編集後記・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・25

＊＊

1、海の生き物とその生息環境に関するニュース

【全国】

●被災地の海洋環境のモニタリング結果を公表　海底土に高放射能

環境省では、昨年 8 月に東日本大震災が海洋環境に及ぼした影響について緊急にモニタリング調査を行った。その結果がようやくまとまったため、公表した。調査の主な目的は、有害物質等が海洋環境に及ぼした影響を調べるもの。結果からは、PCB やダイオキシン類などの有害化学物質については、環境基準（公定法により検出されないこと＝0.0005mg/L 未満）を超えるものはなかったとしながら、臭素系難燃剤では、海底堆積物中に高濃度のところがあり、がれきや陸から川を通した集積があったことを示している。

　同様に、放射性物質の分布も海水中では薄まっているとしているが、海底土の中には高濃度のセシウム 134（0.72～450Bq/kg(dry)）やセシウム 137（1.0~520Bq/kg(dry)）が見いだされている。今後海底土から底魚などへの放射性物質の蓄積・濃縮が懸念される。

●マリアナ海溝でシロウリガイを発見

海上保安庁海洋情報部が、グアム島沖のマリアナ海溝で、深海に棲むシロウリガイの大規模な集団が発見されたと発表した。同情報部によると、発見されたのは水深 5620m 付近の湧水域で、周辺には地球内部のマントルが直接露出して形成された岩石帯があるところ。シロウリガイは、海底から湧出する地下水中に生活し、硫化水素から有機物を化学合成するバクテリアと共生して生活している。マリアナ海溝でシロウリガイが発見されたのは初めてという。

●アナゴの産卵場所を発見　沖ノ鳥島沖

アナゴと呼んで天ぷらや寿司にして食べる魚のマアナゴは、ウナギと並んで産卵場所が不明な魚だったが、水産総合センターと東京大学大気海洋研究所、九州大学などの研究者が調査して、沖ノ鳥島の南の海底山脈上の海域で産卵していることが初めて確認された。マアナゴはウナギと近いグループの魚であるが、ウナギと違って川には上らず、沿岸で生活する。しかし、沿岸で見つかるのは5歳までのマアナゴだけで、それ以降は成熟すると共に深い大洋に産卵に出ると考えられていたが、その場所が特定されてはいなかった。マアナゴは瀬戸内海などにも多いが、近年は漁獲量が減少している。

【東北】

●「ちきゅう」が世界最深記録を目指して

八戸港に寄港した海洋研究開発機構の地球深部探査船「ちきゅう」は、今年の夏に八戸沖で海底下2200mまでの深さに調査のメスを入れることを計画している。地下の生命圏を解明することを目的として具体的なスケジュールを発表したもの。はたしてどのような成果があるか、期待される。

●海底土をセメントで覆う計画　東電福島第一原発

東京電力は、福島第一原発事故の放射性物質の拡散を防ぐために、1号機から6号機までの排水口付近の海底土をセメントを加えた土で覆う計画を実施することになった。放射性物質を含んだ海底土が波などで舞い上がり、拡散するのを防ぐのが目的。5～6月頃までに工事を終えたいとしている。海底に降り積もった放射性物質は、もうすでに魚などに取り込まれて移動拡散を始めている。一刻も早く対策をとらねばならない。海底をセメントで覆うとは、いよいよ海を殺してしまうことになる。しかし、すでに放射性物質によってこれらの海は殺されている。被害を最少に食い止めるためには、一部の海をセメントで固めることもやむをえない。東電の罪は計り知れないほど大きい。

●「復興国立公園」に沿岸都市が高速道路を要望

青森県八戸市から宮城県気仙沼市までの三陸海岸をつないで作られることが計画されている「三陸復興国立公園（仮称）」の構想について、関係する三陸沿岸都市会議が岩手県宮古市で開催され、八戸・久慈自動車道を含む復興道路3路線の早期全線開通などの10項目を要望することを決めた。しかし国立公園は、自然環境を保全するためのものであり、その構想に高速道路建設を要望するというのは、たとえ復興のためとはいえ、あまりに趣旨をはき違えていないだろうか。「三陸復興国立公園」には、すでに八戸から気仙沼まで続く「復興遊歩道」の建設が入っている。歩道ではあるが、コンクリートで固めた遊歩道が続く三陸海岸にならないようにして欲しいものである。

【関東】

●絶滅ミズナギドリの一種が小笠原に生息

1990年代の初頭にミッドウエー諸島で確認されて以降、絶滅したと信じられていた英名ブライアンズ・シアウオーター（ミズナギドリの一種）が、東京都小笠原諸島に生息していることが発見された。茨城県つくば市の森林総合研究所の研究グループが発見したもので、和名を「オガサワラヒメミズナギドリ」と付けた。1963年にミッドウエー諸島で採取された同種の鳥は、「ヒメミズナギドリ」とされてきたが、昨年行われたアメリカの DNA 解析に基づいた研究では、この鳥は新種の「ブライアンズ・シアウオーター（オガサワラヒメミズナギドリ」であるとされた。今回発見された小笠原諸島のオガサワラヒメミズナギドリは、翼を拡げると55-60cm とミズナギドリとしてはやや小型で、背は黒、腹は白い。足が青く、尾羽が長いことが特徴的な鳥である。小笠原諸島では、90年代後半から昨年までの間に6個体が発見されていた。研究グループは、これらの死体を DNA 解析して、ミッドウエー諸島の「ブライアンズ・シアウオーター」と同種であることを確認した。森林総合研究所の川上和人主任研究員は、「せいぜい数百羽しかいないのでは」と話しており、「間違いなく世界的な希少種であり、保全するために繁殖地を見つけ行動と生態を明らかにする必要がある）と述べた。絶滅と思われていた鳥の発見は、アホウドリ以来のことという。

●東京都がアホウドリのモニタリングを開始

世界自然遺産に登録された東京都小笠原諸島で、東京都がアホウドリ類の保護を目的として3年間のモニタリング調査を行うことになった。小笠原諸島では、家畜として持ち込まれたヤギが野生化し、島の草を食べ尽くした結果、アホウドリ類が繁殖する草地が無くなってしまい、アホウドリ類が絶滅した。東京都では1997年度からヤギの駆除を開始し、現在では人の住む父島を除いて、ヤギが棲む島はなくなった。ヤギがいなくなった聟島列島では、植生が回復し、聟島や媒（なこうど）島では、アホウドリが繁殖を始めた。調査は聟島列島を中心にアホウドリ、コアホウドリ、クロアシアホウドリなどの絶滅の危機に瀕している鳥の繁殖個体数、飛来数などのデータを収集し、これら希少種の回復につなげたいとしている。

●7.8m の津波に対応する防潮施設を建設へ　九十九里浜

千葉県は、昨年12月に「千葉東沿岸海岸保全基本計画検討委員会」を開き、一宮町片貝漁港北側からいすみ市の太東漁港までの津波予想水位をあらたに7.8m とするよう提案した。この水位は数十年から百数十年に一度の頻度で発生する津波を想定している。一宮町では住民説明会を開いて土塁などの防潮施設をさらに高くしようとしている。住民からは「土塁をもっと高くできないか」などの意見がでたというが、海岸の自然環境を守る視点での意見はでなかった。

●放射能汚染汚泥を東京湾に埋立

東京都立川市と八王子市では、下水処理場からの焼却灰をこれまではセメント原料などとして再利用していたが、福島第一原発事故のあと焼却灰から高濃度の放射性物質が検出されたため。再利用ができず、各処理場で仮置き保管してきたが、立川市下水処理場では200トン、八王子市では170トンが溜まり、仮置き場の容量がいっぱいになる見通しとなった。そのため、東京都と協議し、新たに発生した焼却灰を乾燥させた後、東京湾の中央防波堤外側に運んで埋め立てることになった。東京都は中央防波堤に隣接する江東区や大田区の了解を得ているとして、すでに搬出作業にかかっている。また、すでに500トンの焼却灰を溜めている町田市でも、東京湾中央防波堤外側での埋立処分を検討している。埋め立てた後の東京湾への影響については、どの程度把握しているのだろうか。影響はないという保証はあるのだろうか。

【北陸】

●海岸漂着ゴミ類の展示会　氷見市松田江浜

富山県氷見市の松田江浜では、季節風が強まる冬を中心に氷見市柳田の市立海浜植物園の職員が松田江浜でゴミを初めとした漂着物を清掃しているが、この度、同園で漂着物の展示会を行った。展示しているゴミ類は 70 種類 250 点。同時に拾った貝類も 100 種類が展示されている。ゴミには、ロシア語や中国語、ハングルなどが書かれたものも多く、ゴミ問題の国際化が伺われる。同園では、展示を見て少しでもゴミを捨てないように気をつけて欲しいとしている。

●沖縄から　かほく市の海岸にアカウミガメ

石川県かほく市の木津海岸にアカウミガメが漂着し保護された。漂着したアカウミガメは、沖縄県竹富町の黒島で放流された個体であることが、付けられていた標識から判明した。当初はかなり衰弱しており、保護した石川県漁協南浦支所の職員らが海水プールで飼育して回復を待っている。石川県では、2009 年に 1 頭のアカウミガメが産卵に上陸したことが知られているが、非常に珍しい。

【東海】

●環境浄化へ微生物を小学生に配布

浜松市では、環境浄化を目的に、「エコネットみっかび」などの協力で、環境を浄化するという微生物「えひめ AI-2」をつくっている。浜名湖ロータリークラブの浜名湖浄化プロジェクト委員会では、その作業を行い、作った「えひめ AI-2」をペットボトル800本に詰めて、市内の3小学校に配った。環境浄化に使って欲しいとしている。「えひめ AI-2」は、いわゆる EM 菌の一種。EM 菌は、ある宗教団体の有機農法のために作られ、有機物の分解に有効とされているが、環境浄化作用については、疑問視する専門家も多い。浜名湖では、これ

らのバクテリアを湖に撒いて環境浄化を図る運動が行われているが、科学的な解明無しでこのような行為を行うのは、かならずしも適当ではない。悪影響が出た場合は、取り返しがつかないのだから。

●滋賀県も三河湾環境保全に協力　嘉田知事

愛知県の大村知事は、新年度から「三河湾環境再生プロジェクト」を実施する。大村知事は、琵琶湖の環境保全に取り組んでいる滋賀県の嘉田知事を訪れ、今年の夏に予定されている「三河湾環境再生シンポジウム」への参加を要請し、両県の NPO 交流促進を提案した。嘉田知事は快諾、琵琶湖の環境保全の活動をしている NPO と伊勢湾と矢作川や豊川の流域保全の活動をしている NPO が相互の知恵を共有することで合意した。

【沖縄】

●「環境保全は不可能」　辺野古アセス、県知事が意見書

昨年末に夜明け前に強引に沖縄防衛局が運び込んだ米軍普天間基地代替え基地建設のための環境アセス評価書を、沖縄県の環境影響評価審査会は、オスプレイ配備の「後出し」によって県民が意見を言う機会を奪うなど、違法性の強い環境アセスのやり方を批判したが、アセスそのもののやり直しを求めることはしなかった。しかし、「環境保全は（この対応では）不可能」と答申した。仲井真沖縄県知事は、この答申を踏まえて、「環境保全は不可能」と結論づけた意見書を沖縄防衛局に提出した。政府はこれに対して、アセス書の一部を書き加えて、野田首相の沖縄訪問や沖縄県への予算の積み上げなどによって、今年の夏頃にも埋立申請書を沖縄県に提出する構えを見せているが、沖縄県知事は今のところそれに応じる姿勢は見せていない。数少ないことがはっきりしたジュゴンの保護のためにも、辺野古の埋立はなんとしても止めさせなければいけない。

2.「海の生き物を守る会」の活動報告

●嘉陽の海岸で砂浜調査とジュゴンのお話し会を開催

2月11日（土）に、沖縄県名護市嘉陽の海岸で、砂浜海岸生物調査を「日本自然保護協会」と「北限のジュゴン調査チーム・ザン」との共催で開催しました。沖縄タイムズと琉球新報がその様子を報道してくれました（記事参照）。参加者は、12名でした。みんなで嘉陽海岸の2ヶ所で調査を行った後、採集した海藻や動物を同定しました。その後、嘉陽の浜松荘で、向井　宏代表による「ジュゴンのくらしと環境」と題したお話しがあり、ジュゴンが訪れる嘉陽海岸でジュゴンについてみんなで勉強をしました。

2012年2月12日沖縄タイムズ

嘉陽海岸観察会
豊かな自然学ぶ

【名護】嘉陽海岸にすむ生き物を調査するフィールドワークが11日、同海岸で行われ、参加した市民らは生き物や海草、植生を観察して東海の豊かな自然に触れた一日。観察会は日本各地で沿岸生態系の現状を研究する「海の生き物を守る会」の調査活動の一環。北限のジュゴンを見守る会チームザンと日本自然保護協会が共催した。

参加者は、ナキオカヤドカリやスナガニなどの生き物や、カサノリやアーサ、打ち上げられた貝などを分類し、写真を撮影したりメモを書いたりして記録をまとめた。

同守る会代表で、向井宏・京都大学特任教授は「人口ビーチが多い沖縄で、自然のまま残っている嘉陽海岸は貴重になりつつある。陸から海にかけての生態系が残っている」と評価。ジュゴンの貴重な生息地とされる同海岸について「ジュゴンが好む藻場も、砂がなくなれば海草がなくなる可能性がある。砂を守ることが大事」と保全の重要性を指摘した。

2012年(平成24年) 2月29日 水曜日 琉球新報

砂浜の役割再確認
自然保護団体 嘉陽海岸で生物調査

【名護】天然の砂浜にすむ生き物を調べることで環境保全に生かそうと、名護市の嘉陽海岸で自然保護団体の会員らによる生物調査が行われた。約2時間でヤドカリやカニ、ハゼなど10種類以上の生き物と植物が確認された。同様の調査を全国で行い、今回も調査方法を指導した「海の生き物を守る会」(京都市)の向井宏代表(京都大特任教授)は「高潮の影響を軽減するなど本来の砂浜は防災面でも大事だ」と重要性を強調した。

調査は「守る会」と日本自然保護協会、北限のジュゴンを見守る会チームザンの共催で、11日にあった。

嘉陽海岸は後方の集落に砂や波などの高潮被害があり、県が護岸工事を計画している。沖はジュゴンの餌場、海岸はウミガメ産卵地でもあり、環境への影響を考え、工事に向けて住民と事業者が話し合う機会もつくられている。

調査では生き物以外にも、ジュゴンの餌となる海草などが波打ち際に大量に打ち上げられているのが見つかった。

全国約70カ所で同様の調査をした向井代表は「全国で砂浜が減った一番の原因は砂防ダムや護岸工事など陸とのつながりが断たれたこと。陸からの土砂の供給がなくなったからだ」と指摘。遠浅の広大な砂浜は防災効果が大きいとして「これまでは防災のために護岸を整備してきたが、砂浜が減った根本の原因を考える必要がある」と話した。

砂浜に打ち上げられたジュゴンの餌となる海草などを調べる向井宏さん(中央)ら=11日、名護市嘉陽

2012. 2. 29　琉球新報

●京都で講演と歌の会を開催

海の生き物を守る会では、2012年2月18日に、京都で「放射能汚染と海の生き物」と題した講演と歌の会を行いました。向井　宏代表と鹿児島大学教授の佐藤正典さんが、原発による放射能汚染

の問題点と放射能以外による原発が海の生き物へ与える悪影響について話しました。また、会員で京都在住の歌手江藤ゆう子さんが、海の唄を歌い、海を愛する心を聴衆に呼びかけました。

3.「海の生き物を守る会」の活動予定

●沖縄美ら海で講演会・観察会を予定（５月１９−２０日）

2012年5月19-20日に、沖縄の海洋博研究センターで、向井　宏の講演会（センターとの共催）、倉谷うららさんの講演会（センター後援）と海草藻場とサンゴ礁の生き物観察会（センターと共催）を行います。5月の沖縄はもう夏のようです。青い海に入って、海の中を覗いてみませんか。ぜひご参加下さい。

講演:「世界の海草類とサンゴ礁における海草も場の役割」 向井　宏（京大特任教授）

講演:「海の生き物　フジツボの魅力」 倉谷うらら（海洋生物研究家）

観察会:「海草も場とサンゴ礁の生物観察」指導は西平守孝（海洋博研究センター顧問）・向井　宏

海洋博研究センター　イベント情報

Ocean Expo. Research Center

（財）海洋博覧会記念公園管理財団 総合研究センター / Ocean Exposition Commemorative Park Management Foundation General Research Center

参加者募集中!

海洋博研究センター・海の生き物を守る会　共催

参加無料

講演会　世界の海草類とサンゴ礁における海草も場の役割

日 時：2012年5月19日（土）　10:00～12:00
場 所：海洋博研究センター視聴覚室
定 員：50名（先着順）
対 象：一般市民
講 師：向井　宏
京都大学特任教授・海の生き物を守る会 代表

世界の海草類の分類と分布を概説し、海洋生態系 わけてもサンゴ礁における海草も場の役割について国内外におけるこれまでの豊富な研究成果に基づいて講演し、海洋環境の保全を考えます

会場／お申し込み・お問い合わせ先

海洋博研究センター　普及開発課

（財団法人 海洋博覧会記念公園管理財団 総合研究センター）
〒905-0206 沖縄県国頭郡本部町字石川８８８番地
Tel：0980-48-2266／Fax：0980-48-2200
ウェブサイト：http://kaiyouhaku.jp/grc/

海洋博研究センターでは、主に親子を対象に「美ら海自然教室」「美ら島自然教室」「美ら島・美ら海こども工作室」など、楽しみながら沖縄の自然環境を考え、理解していくイベントを開催しています。

地図

海洋博研究センター　イベント情報

Ocean Expo. Research Center

（財）海洋博覧会記念公園管理財団 総合研究センター / Ocean Exposition Commemorative Park Management Foundation General Research Center

参加者募集中!

海の生き物を守る会 主催・海洋博研究センター 後援

講演会

参加無料

海の生き物 フジツボの魅力

日 時：2012年5月19日（土）　13:00～14:30
場 所：海洋博研究センター視聴覚室
定 員：50名（先着順）
対 象：一般市民
講 師：倉谷 うららさん（海洋生物研究家）

海洋生物、わけても
フジツボ類をこよなく愛する稀有の
海洋生物研究家の倉谷 うららさんを
迎え、フジツボについてのうんちくを
話していただきます

会場／お申し込み・お問い合わせ先

海洋博研究センター　普及開発課

（財団法人 海洋博覧会記念公園管理財団 総合研究センター）
〒905-0206 沖縄県国頭郡本部町字石川８８８番地
Tel：0980-48-2266／Fax：0980-48-2200
ウェブサイト：http://kaiyouhaku.jp/grc/

海洋博研究センターでは、主に親子を対象に「美ら海自然教室」「美ら島自然教室」「美ら島・美ら海こども工作室」など、楽しみながら沖縄の自然環境を考え、理解していくイベントを開催しています。

地図

倉谷うららさんに、思い切りフジツボの魅力を語っていただきます。乞うご期待。

海洋博研究センター　イベント情報

Ocean Expo. Research Center

（財）海洋博覧会記念公園管理財団 総合研究センター / Ocean Exposition Commemorative Park Management Foundation General Research Center

参加者募集中!

海洋博研究センター・海の生き物を守る会　共催

参加無料

自然観察会

サンゴ礁と海草も場の生物観察

日 時：2012年5月20日（日）　11:00～14:00
場 所：備瀬のサンゴ礁と海草も場
（海洋博研究センターに集合した後，現場へ移動）
定 員：20名（先着順）
対 象：一般市民（高校生以上）
講 師：向井　宏　海の生き物を守る会会長 代表
西平 守孝　海洋博覧会記念公園管理財団 参与

サンゴ礁の岩礁地帯の
多様な環境やそこに棲息する生物と、
サンゴ礁の砂泥底に発達する海草も場の
環境や海草と関わりながら棲息する
多様な生物たちを観察する

会場／お申し込み・お問い合わせ先

海洋博研究センター　普及開発課

（財団法人 海洋博覧会記念公園管理財団 総合研究センター）
〒905-0206 沖縄県国頭郡本部町字石川888番地
Tel：0980-48-2266／Fax：0980-48-2200
ウェブサイト：http://kaiyouhaku.jp/grc/

海洋博研究センターでは、主に親子を対象に「美ら海自然教室」「美ら島自然教室」「美ら島・美ら海こども工作室」など、楽しみながら沖縄の自然環境を考え、理解していくイベントを開催しています。

5 月 20 日は、大潮です。備瀬の海岸で泳いだりしながら海草藻場やサンゴ礁とそこに棲む動物たちを観察しましょう。親子連れも大歓迎。沖縄県外から参加を希望する方は、事務

局までお知らせ下さい。観察会は人数制限があります。受付は 2 ヶ月前からです。

4. 海の生き物に関する運動・行事・他の団体の情報

【全国】

鎌仲ひとみ監督作品　映画「ミツバチの羽音と地球の回転」、映画「ぶんぶん通信」、纐纈あや監督作品　映画「祝（ほうり）の島」の上映予定、日程と会場は下記の通り。詳しくはそれぞれの公式ホームページをご覧下さい。

●鎌仲ひとみ監督作品　映画「ミツバチの羽音と地球の回転」上映予定

3 月 2 日（金）　大阪市（大阪府）　豊島区（東京都）
3 月 3 日（土）　札幌市（北海道）　多治見市（岐阜県）　大津市（滋賀県）　取手市（茨城県）
3 月 4 日（日）　高岡市（富山県）　福生市（東京都）
3 月 10 日（土）　厚木市（神奈川県）　福井市（福井県）
3 月 11 日（日）　川崎市（神奈川県）
3 月 17 日（土）　上水内郡信濃町（長野県）　千曲市（長野県）
3 月 18 日（日）　八丈町（東京都）　福岡市（福岡県）　秋田市（秋田県）
3 月 20 日（火）　藤沢市（神奈川県）　宗像市（福岡県）
3 月 24 日（土）　千葉市（千葉県）
3 月 31 日（土）　足柄上郡開成町（神奈川県）

●鎌仲ひとみ監督作品　DVD「ぶんぶん通信」上映予定

3 月 2 日（金）　福岡市（福岡県）　No.2 上映
3 月 9 日（金）　福岡市（福岡県）　No.3 上映
3 月 11 日（日）　札幌市（北海道）　No.1~3 上映　清瀬市（東京都）　No.3 上映

●纐纈あや監督作品　映画「祝の島」上映予定

3 月 3 日（土）　小金井市（東京都）
3 月 17 日（土）　福岡市（福岡県）
3 月 25 日（日）　秩父市（埼玉県）

【国際】

●アースウオッチ・プロジェクト　参加者募集中

申込先：NPO 法人　アースウオッチ・ジャパン　℡：03-3511-3360 e-mail: info@earthwatch.jp
http://www.earthwatch.jp

★コククジラの回遊（カナダ）

2012 年 7 月 15 日～21 日、7 月 15 日～27 日

2012 年 8 月 19 日～25 日

2012 年 8 月 30 日～9 月 5 日、9 月 5 日～9 月 11 日

★コククジラの回遊（USA　カリフォルニア）　研究分担金：未定

2012 年 6 月 24 日～6 月 30 日、7 月 1 日～7 月 7 日

2012 年 7 月 8 日～7 月 14 日、7 月 15 日～7 月 21 日、

2012 年 7 月 29 日～8 月 4 日

2012 年 3 月 16 日～3 月 18 日　研究分担金：¥58,000

★サメ（ベリーズ）　研究分担金：¥166,000

★サンゴ礁生態系の復元　（ベリーズ）　研究分担金：¥170,000

2012 年 6 月 9 日～6 月 16 日（SCUBA）

2012 年 7 月 22 日～7 月 29 日

2012 年 7 月 29 日～8 月 5 日

★マングローブとサンゴ礁　（バハマ諸島）

2012 年 6 月 15 日～6 月 24 日

2012 年 6 月 25 日～7 月 4 日

2013 年 3 月 3 日～3 月 12 日

★ウミガメ　（コスタリカ）　研究分担金：¥156,000

★ペンギン　（南アフリカ）　研究分担金：¥173,000

花王・教員フェローシップ　生物多様性支援プログラムにより、この調査に参加する小中学校の教員 10 名に支援があります。支援内容は、参加費約 25 万円、費用補助 10 万円および環境教育実践のフォロー。テーマ「学校教育の現場で環境教育を進める上で、自然観察や自然体験がどのような意味があると考えるか」について、1000～1200 字にまとめて応募する。募集は 3 月 1 日～4 月 10 日。応募先：アースウオッチ・ジャパン　花王・教員フェローシップ係（102-0075 東京都千代田区三番町 24-25 三番町 TY プラザ 5 F）℡：03-3511-3360　E-mail: info@earthwatch.jp

★ウミガメ　（オーストラリア・クイーンズランド）　研究分担金：未定（参考：2011 年¥45,000）

2012 年 5 月 16 日（1 日間）

2012 年 7 月 19 日

2012 年 8 月 22 日

2012 年 10 月 19 日

2012 年 11 月 20 日

★マンタの海　（オーストラリア）　研究分担金：未定

2012 年 6 月 23 日～7 月 1 日

2012 年 9 月 12 日～9 月 20 日

★バンドウイルカ　（ギリシャ）　研究分担金：未定（参考：2011 年¥159,000）

現地調査期間：8 日間

調査開始日：2012 年 4 月 17 日、4 月 26 日、5 月 5 日、5 月 29 日、6 月 7 日、6 月 16 日、6 月 26 日、7 月 5 日、7 月 14 日、7 月 30 日、8 月 8 日、8 月 17 日、8 月 26 日、9 月 5 日、9 月 14 日、9 月 23 日

★クジラとイルカ　（イギリス・ヘブリディーズ諸島）

研究分担金：未定　（参考：2011 年　¥160,000）

現地調査期間：8 日間

調査開始日：2012 年 6 月 21 日、8 月 2 日、8 月 16 日、9 月 18 日

【国内】

●2012 年　アースウオッチ・国内プロジェクト

★温暖化と沿岸生態系－地球規模の環境変動が沿岸生物群集に与える影響の解明－

調査地：千葉県鴨川市～館山市にかけての岩礁海岸

開催予定：4 月・11 月（2 泊 3 日）

主任研究者：仲岡雅裕（北海道大学教授）

調査内容：磯の生物の分布を研究者が同定し、参加者が記録する

★沖縄のサンゴ礁－サンゴ礁の白化の過程とその原因の解明に向けた調査－

調査地：沖縄県国頭郡本部町

開催予定：6 月後半・9 月後半（4 泊 5 日）

主任研究者：鈴木　款（静岡大学教授）

調査内容：珊瑚の観察や海水と堆積物中のミクロ生物に関する調査の手伝い

★東京湾のアマモ－温暖化をはじめとする環境変化が沿岸生態系に与える影響を探る－

調査地：千葉県富津市

開催予定：6 月（1 泊 2 日）

主任研究者：仲岡雅裕（北海道大学教授）

調査内容：富津干潟において、アマモの植生状態を調べ、測定し、記録する

★東日本グリーン復興モニタリングプロジェクト－被災した地域の生きもの調査（干潟調査）

調査地：宮城県松島湾、島嶼、桂島、寒風沢島　ほか

開催予定：5～7 月中（1 泊 2 日）

主任研究者：鈴木孝男（東北大学助教）

調査内容：干潟の生きものを探し、記録する。被災前のデータと比較する

申込先 : NPO 法人　アースウオッチ・ジャパン　TEL : 03-3511-3360 e-mail: info@earthwatch.jp

http://www.earthwatch.jp

研究者からのメッセージ

2011年3月11日に発生した地震と津波により、東北地方は甚大な被害を受けました。

東北の被災地の多くは、海の恵みや田んぼの営みなど、生態系の恵み（生態系サービス）を最大限に利用する生活をしてきた地域です。

今、できるだけ早い復興は共通した願いですが、環境への影響評価を行うことなく、早急に山や森を削り、川や海、そして田んぼの生物多様性や生態系への配慮のない造成は、生態系サービスを低下させて、被災地以外にも多くの二次的な災害を生み出しかねません。

私たちは、この地の農林水産業が享受すべき将来の生態系からの恵みを見据え、海や田んぼの生態系の豊かさや生物多様性を育む「グリーン復興」を行うことで、農林水産業と共に生きてきた地域が、より着実に力強く復興すると信じています。

今回のプロジェクトでは、干潟のモニタリング調査を行います。この調査は、10年間という長いスパンでの大学・NPO・企業・市民の協働調査とします。身近な自然を調べることにより、自然との共生に対する意識や市民の環境リテラシーを促進させ、それが持続可能な地域復興へとつながることを目指します。

多くの方のご参加をお待ちしています。

探査日及び探査地	【チーム1】5月26日(土)～27日(日) 松島湾（宮城県松島町、利府町） 【チーム2】6月9日(土)～10日(日) 蒲生干潟（宮城県仙台市） 鳥の海（宮城県亘理町） 【チーム3】6月23日(土)～24日(日) 松川浦（福島県相馬市） 【チーム4】7月7日(土)～8日(日) 津軽石川河口（岩手県宮古市） 【チーム5】7月21日(土)～22日(日) 北上川河口（宮城県石巻市） 【チーム6】8月4日(土)～5日(日) 浦戸桂島、寒風沢島（宮城県塩釜市）
研究者	占部　城太郎 東北大学大学院生命科学研究科教授 鈴木　孝男 東北大学大学院生命科学研究科助教 牧野　渡 東北大学大学院生命科学研究科助教 向井　康夫 東北大学生命科学研究科
募集人数	最少8人　最大12人
研究分担金	事務局にお問い合わせください

特定非営利活動法人
アースウォッチ・ジャパン
〒102-0075　東京都千代田区三番町24-25三番町TYプラザ5階
Tel.03-3511-3360　Fax.03-3511-3364
e-mail : info@earthwatch.jp

【関東】

●海辺のナチュラリスト講座（スタッフ研修特別コース）

OWS では来年度も、子供を対象とした海辺で行う自然体験学習プログラム「ネイチャースクール（日帰り・宿泊）」を実施します。この「ネイチャースクール」にスタッフとして参加を希望される方は、このコースご参加ください。この特別コースでは、ネイチャースクールの実施準備のほか、海辺の自然や生き物と親しみ、楽しみながら自然を守るための基礎的な知識や方法を学べます。参加者には修了証として「ナチュラリスト」カードが発行されます。　スノーケリングやダイビングなど特別なスキルは必要なく、健康な方ならどなたでも参加できます。この機会にぜひご参加ください。

※過去に開催した講座の様子はこちらのブログをご覧ください。

⇒ http://ows.seesaa.net/article/228082847.html

▼ネイチャースクールとは？（参考）

⇒ http://www.ows-npo.org/activity/uminoko/index.html

＜2012 年度　第 1 回コース＞

開催日　　2012 年 3 月 10 日（土）～11 日（日）　1 泊 2 日

開催場所　三浦半島

募集人数　6 名（最少催行人員 3 名）

対象者　　1 回以上ネイチャースクールにスタッフとして参加できる方

※OWS のサポーターまたは正会員への登録が必要となります。

受講費　　8,000 円（特別価格）　※通常受講費は 13,800 円

※別途、宿泊費（1 泊 2 食付：8,000 円）、食費、往復交通費

申込み・問い合わせ：OWS 事務局までホームページから、またはＥ-mail、お電話にて。

(TEL:03-5960-3545)　⇒ http://www.ows-npo.org/volunteer/index.html#ns1

※スタッフ研修を含まない通常の「海辺のナチュラリスト講座」をご希望の方は、お問い合わせください。

●ネイチャースクール三浦　～小・中学生 参加者募集～

小中学生を対象としたネイチャースクール・バスツアーを開催します。三浦半島の海岸へ出かけ、海辺の自然観察と生きものしらべ、漂着物を使ったクラフト教室などを行います。春の海ではどんな生き物や漂着物が見つかるでしょうか？ネイチャースクールでは、さまざまな体験学習を通じ、海の自然や生きものについて楽しみながら学ぶことができます。　また、単に海辺での野外活動ではなく、生きものとの接し方や思いやり、自然の大切さを伝えていくことがこのプログラムの大きなテーマです。　小学 3 年生～中学 3 年生までのお子さんなら、どなたでも参加できます。お友達や兄弟でお誘い合わせのうえ、ぜひご参加ください。

開催日　　2012 年 3 月 25 日（日）日帰り

募集人数　25 名（最少催行人員 10 名）
対象者　　小学 3 年生～中学 3 年生
参加費　　OWS メンバー：1,600 円／非会員：2,000 円
（新宿からの往復交通費・クラフト材料・教材・保険代含む）
※弁当・飲み物は各自持参してください
集合解散　新宿駅西口　8:00 集合（バス送迎）17：30 解散（予定）
引率　　ＯＷＳネイチャーガイドが引率します。
詳しくは OWS 事務局まで E-mail、またはお電話にてご連絡ください。

●河川汽水域環境に関するワークショップ

日時：　2012 年 3 月 13 日(火)13:00～16:30
場所：　ベルサール丸の内（東京駅・有楽町より徒歩 1 分）
主催：　国土交通省国土技術総合政策研究所
主旨：　河川汽水域においては、良好な生物生息環境を有する空間としての重要性の認識が高まる中、洪水流下能力の確保や環境の保全などを考慮した総合的な管理方策が求められています。国土技術政策総合研究所では、平成 21 年度より「汽水域環境の保全・再生に関する研究」を開始しており、本ワークショップは、これまでの研究成果をお示しするとともに、汽水域や海岸分野で活躍されている専門家を交え、様々な研究から得られた知見に基づいた「河川汽水域の持続的な保全・再生」を進めるための方策について議論するものです。
話題提供・パネルディスカッション（敬称略）：
佐藤愼司（東京大学）　清野聡子（九州大学）　関根雅彦（山口大学）　西村修（東北大学）　山本晃一（河川環境管理財団）　ほか
参加方法：
参加無料です。　定員が 70 名ですので、お早めにお申し込みください。
事前申込みについては右記を参照。http://www.nilim.go.jp/lab/bbg/event/index.html

【東海】

●平成２３年度海藻おしば協会主催「指導者養成講座」２回シリーズ
環境教育としての『第２回海藻おしば指導者養成講座』

■シリーズ第２回目（海藻採集・磯の観察・海藻素材の準備・仕上げ実習）
・日時平成２４年３月１０日（土）・１１日（日）の１泊２日
・場所筑波大学下田臨海実験センター実習室（地図参照）／南伊豆の海岸
・対象海藻おしば協会会員／一般（参加には協会入会登録が必要です）
・参加料：￥６，０００（テキスト代・保険代含む／交通費・宿泊費１泊２食￥8,500別途）
協会員以外の参加者：当日に海藻おしば協会会員登録をお願いします。

*海藻おしば協会会員登録費￥３，０００（入会金・年会費）＋α（海の森基金／任意）
＊第１回目に参加され、協会入会登録済みの方は除きます。
・宿泊「和風ペンション小川」予定（筑波大学下臨海実験センターそば）
・講師：田中次郎先生／東京海洋大学教授／海藻おしば協会顧問（予定）横浜康継氏／海藻おしば協会顧問（予定）野田三千代氏／海藻おしば協会会長
：サポート：海藻おしば協会認定指導者
・プログラム
★第１日目／３月１０日（土）・受付・開校式・海岸や磯で漂着海藻採集と磯の観察会／作品づくり
１０：３０ 筑波大学下田臨海実験センター集合
１１：００～１４：００ 周辺の海辺での漂着海藻採集と磯の観察会（車で分乗移動）
＊弓ヶ浜（砂浜）／逢ヶ浜・（磯）＊車での移動／途中昼食／記念写真
＊海藻採集と磯の観察会／指導：田中次郎先生・横浜顧問・野田会長
１４：３０ センターへ戻る（休憩）
１５：００～１６：００
＊海藻の下準備や保存管理実習（色止め・冷凍保存法）／野田会長と認定講師指導
１６：００～１７：００
＊採集した海藻も使って作品づくり《ハガキ１枚》
１７：００ 民宿へ（風呂・休憩）
１８：３０～２１：００（夕食／墾親会／費用は宿泊費に含む）
＊なお、当日宿泊しない方は￥４，０００（飲み物代別）で参加可能
★第２日目／３月１１日（日）
・講座／田中次郎先生・海藻おしば教室レクチュアー・作品の仕上げ
０９：１５ 筑波大学下田臨海実験センター第２研修棟２階実習室集合
０９：３０～１０：３０ 田中次郎先生「海藻の話」
１０：４０～１１：５５「海藻おしば教室レクチュァー」認定講師＆認定講師資格審査
＊（但し、審査希望者があった場合）（審査条件として、これまで２回以上の講座受講の方、また「おしば作品」の提出や海藻おしばとの関わりの履歴、今後の抱負等の作文提出が審査の対象になります）
１２：００～１３：００ 昼食（お弁当）
１３：００～１４：３０＊前日制作した海藻おしば作品の修正とラミネート加工実習
＊Ｑ＆Ａ：田中次郎先生／横浜康継顧問／野田三千代会長
１４：３０～１５：００ 参加者全員で教室の後片付け（原状復帰）・解散
★海藻採集や磯の観察会は天候の状況次第で内容を変更する場合があります。
★プログラム内容は事情により変更する場合があります。
★海岸での海藻採集では、防寒用上着や滑りにくく濡れてもいい履物（長靴）を用意して

ください。
★また砂の付いた長靴などを入れるビニール袋も各自用意してください。
★採集海藻の持ち帰り用に、クーラーボックスやビニール袋などご用意ください。
＊参加申し込みは別紙参加申込書にご記入の上、メールまたはＦＡＸあるいは郵送にて２月１５日（必着）までにご返送ください。
磯の観察会採集した海藻の保存管理作品の乾燥仕上げ実習

【関西】

●テーマ　「カメをとりまく不思議な世界（仮題）」

演　者　須磨海浜水族園の亀崎直樹園長
開催日　３月７日（水）
会　場　カフェスロー大阪（大阪淀川区十三　http://www.cafeslow-osaka.com/）
時　間　19 時～21 時（18 時 45 分開場）
会　費　1000 円（1 ドリンクつき）　別途 1000 円で食事（プレート）を用意できます。
申　込　メールにて、件名にイベント名を明記してお申込ください。イベント名、参加者氏名、連絡先電話番号　食事プレートの希望の有無をご記入ください。
申し込み先 E - mail tamagono@oct.zaq.ne.jp　（野の塾工房たまご）
定　員　15 名程度
対　象　一般
主　催　NPO 法人　体験学習ネットワーク（　http://taiken-net.jimdo.com/　）
環境教育事務所　野の塾工房たまご

【中四国】

●第６回　やまぐち地域再生フォーラム

「ふるさとの海は今：世界に誇る日本の自然の現状」

日時：2012 年３月１６日午後６時-８時半（午後５時半開場）
会場：山口市菜香亭（山口市天花 1-2-7、電話 083-934-3312、http://www.c-able.ne.jp/~saikou/）
ＪＲ山口駅より車で約７分（国道９号沿い七尾山トンネル横）
路線バス/野田学園前バス停下車（徒歩２分）
入場料：無料
講演
１）「沖縄の自然は今、泡瀬・辺野古・やんばる」
水野隆夫（元環境省自然保護官、泡瀬干潟大好きクラブ代表）
２）「内海の豊かさは今、瀬戸内海・有明海」

佐藤正典（鹿児島大学理学部教授）

【九州】

●第３６回九州海洋生態談話会　プログラム

於）鹿児島大学水産学部　東町ステーション

3/3（土）13：00ー17：30

1　岩礁潮間帯における藻食性軟体動物の摂餌生態にみられる種間差

豊西敬　鹿大院・水産

2　ウニのグレージングが藻類に与える影響 - 潮間帯のタイドプールを例に

内田明　鹿大・水産

3　ヒジキは魚に食べられるのか？

清本節夫　水産総合研究センター西海区水産研究所

4　なぜロウソクギンポ雄の配偶成功の偏りは変動するのか？-雄の繁殖サイクルと雌の非独立型配偶者選択に着目して -

松本　有記雄　長崎大学大学院　生産科学研究科

5　潮間帯性ヤドカリ イソヨコバサミの生活史と地域変異に関する研究

村松大吾　神戸大学理学部生物学科

6　有明海・八代海の潮下帯における、マクロベントスと底質環境の比較

園田吉弘　熊本大学沿岸域環境科学教育研究センター

7　有明海・八代海の塩性湿地に生息する底生動物の群集構造解析

渕本大地　熊本大学大学院自然科学研究科

8　豪雨による土砂流入が干潟底生生物に与えた影響

宮山沙紀　鹿大・水産

9　干潟市民調査法の紹介　球磨川調査を例として

森　敬介　国水研

19：00　夕食・懇親会（実験所宿舎食堂にて）

3/4（日）　9：00ー12：30

10　琉球列島におけるウミニナ類の形態変異に関する研究

広瀬公子　鹿大・水産

11　指宿市花瀬崎海岸におけるハナビラタカラガイの分布と季節変化

シーラ・ビリャモア　鹿大院・水産

12　八代海における有害赤潮藻 Chattonella antiqua の出現と水質環境要因の関係について

齋藤孝　熊本大学大学院自然科学研究科

13　有明海におけるグリーンタイドの季節的消長および原因種の特定

村田泰一　　熊本大学理学部理学科

14　タイラギは海底からどれぐらいの高さの海水を利用できるか？

鈴木健吾　　西海区水産研究所有明海・八代海漁場環境研究センター

15　有明海におけるハマグリの分布と移動

橋口真大　　熊本大学理学部理学科

16　「干潟レッドデータブック」の紹介

逸見泰久　　熊本大学・合津マリンステーション

受付は、１２：３０より行います。当日の緊急連絡先は、090-5749-5561（山本携帯）です。

【沖縄】

●セミナー「自主ルールを用いて自然をまもる方法」

自然を守る方法にはさまざまなものがあります。法律で守られるのが一番確実かもしれませんが、法の網がかかるのを待っていては守れない地域も日本にも多くあります。小笠原諸島、北海道の知床や沖縄の慶良間諸島などは地域住民が主体となって導入した自主ルールにて豊かな自然が保護されています。今回のセミナーでは小笠原諸島の南島をはじめとする地域で、自主ルールの制定や進捗に関わってきた中井達郎さんを講師にお招きして、これらの地域での自主ルール制定に至るまでのご経験や克服すべき課題などのお話を伺います。　その後、自主ルールの導入を検討している沖縄県東海岸に住んでいる人たちを招いてディスカッションを行い、東海岸の自然をどうしたいか、どのようになって欲しいか、話しあっていきたいと思います。自然を守ることや自然と一緒に生きていくことに興味がある人はどなたでも大歓迎です。お気軽にお越しください。

場所：名護市中央公民館研修室（名護市）　http://www.city.nago.okinawa.jp/7/6733.html

〒905-0014　沖縄県名護市港二丁目１番１号 電話：0980-53-5428

時期：2012 年 3 月 4 日（日）13:00～16:30

プログラム：

13:00　開催あいさつ　　牧志治（日本自然保護協会/沖縄・生物多様性市民ネットワーク　アオサンゴ作業部会代表）

13:05　第１部：講演

「自主ルールを用いた自然の守り方」（日本自然保護協会理事/国士舘大学　中井達郎）

14:00-14:20

「東海岸の海について～チリビシのアオサンゴ群集と海草藻場～」

（日本自然保護協会/沖縄生物多様性市民ネットワークアオサンゴ作業部会　安部真理子）

14:30-16:00　第 2 部パネルディスカッション「沖縄島東海岸の未来について考えよう」

パネリスト　　東恩納琢磨（じゅごんの里代表/名護市議）

浦島悦子　（北限のジュゴン調査チーム・ザン）

中井達郎　（日本自然保護協会理事/国士舘大学　中井達郎）

安部真理子（日本自然保護協会/沖縄・生物多様性市民ネットワーク）

ファシリテーター：　中野義勝（琉球大学／沖縄県サンゴ礁保全推進協議会）

16:00　閉会の挨拶　　吉川秀樹（沖縄・生物多様性市民ネットワーク代表）

主催：沖縄生物・多様性市民ネットワーク　アオサンゴ作業部会

共催：北限のジュゴン調査チームザン、沖縄生物多様性市民ネットワーク、日本自然保護協会　　後援：沖縄県環境生活部、沖縄県サンゴ礁保推進協議会

問い合わせ：沖縄・生物多様性市民ネットワーク　アオサンゴ作業部会セミナー担当まで

e-mail: okinawabdoasango@gmail.com　TEL：080-5067-0957

●泡瀬干潟の今後を考える　シンポジウム

泡瀬干潟の今後を考える～生物多様性条約第１０回 締約国会議に学ぶ～

日時：3 月 12 日(土)、午後 1 時～5 時

場所：沖縄市農民研修センター、大ホール

内容：工事進行で破壊されつつある泡瀬干潟（海草藻場･貝・砂州）、沖縄市の新埋立事業の合理性の無さ

2010 年生物多様性締約国会議（CBDCOP10）in 名古屋報告

意見情報交換、今後の闘い方について

主催(予定)：泡瀬干潟を守る連絡会、日本自然保護協会、WWFJ、ﾗﾑﾈｯﾄ J

参加費：資料代 500 円

●海洋博研究センター サンゴワークショップ

「サンゴの分類と同定 2012」参加者募集

・対象：一般市民・学生，受講料：無 料，募集定員：16 名（4 日間とも受講可能な方）

・担当：西 平 守 孝

・内容：骨格標本を観察して，日本に分布する造礁サンゴの属の特徴を学習し，同定スキルを修得する

・会場：海洋博覧会記念公園管理財団総合研究センター視聴覚室

・日時：2012 年 3 月 22 日（木）～3 月 25 日（日）（4 日間連続）09:00～17:00 まで

・ポスターは海洋博研究センターＨＰに掲載 http://www.kaiyouhaku.jp/grc/index.html

・参加申し込みとお問い合わせは下記まで：
海洋博覧会記念公園管理財団総合研究センター普及開発課 担当：篠原礼乃・高 英昭
電話：0980-48-2266（午前 9 時～午後 5 時）ファクス：0980-48-2200
E-mail: oerc@kaiyouhaku.or.jp メイルの件名は 「サンゴの分類と同定」 とお書き下さい

5．きらめく動物たちの命と海
【久保田信の白浜だより（その20）】

20011 年、白浜の京都大学瀬戸臨海実験所構内とその付近で大量のオカヤドカリ類が出現

天然記念物オカヤドカリ類は世界の熱帯・亜熱帯に 15 種生息するが、その内の約半数の 7 種が我が国に生息する。日本での自然分布の地理的北限はわが紀伊半島である。過去 10 年で紀伊半島では古座、紀伊大島、すさみ、田辺市で出現した。しかし、田辺市の記録は状況からみてペットの逃亡であろう。

著者の常駐する和歌山県白浜町では、オカヤドカリ類の古い記録があり、越冬も観察されている。京都大学瀬戸臨海実験所が保管する標本の中にも、恐らく 1950 年以前に瀬戸（白浜町）から取られた大型のオカヤドカリ類の液浸標本がある。

ながらく白浜周辺海域からオカヤドカリ類に関する報告は途絶えていたが、ムラサキオカヤドカリが、2011 年に瀬戸臨海実験所構内やその付近で多数出現し、その年の 11 月下旬までに番所山で 120 個体以上マーキングし、構内および実験所付近でも 110 個体以上にマーキングした。特筆すべきは、瀬戸臨海実験所南浜で、少数例ではあるが、幼生を夜間に本州で初めてリリースするのを目撃できた。実験所付近でこの行動がみられても、奄美諸島以北の地域なので、残念ながら再生産につながらないとされているので、無効分散となってしまうのだろう。

一方で、南方より黒潮に乗って幼生が運ばれてきており、現に北浜でも年によって大量

の幼体が出現したことがある（2006 年）。そこで、実験所北浜でオカヤドカリ類の定着したばかりの幼体の出現を調べていたところ、2011 年 10 月中旬に２回だけだが、少数ずつが発見できた。北浜の船着場の石組みの間とそこに沿った砂浜の上を元気に這いまわっていた。甲長は大きいもので 4.1 mm で、宿貝はミクリガイだった（図）。これらは採取して県と町の許可（指令文第 120(3)）を得て飼育中である。

悲しいことに、北浜や番所崎には彼らが成長したときに背負う大きな貝殻が不足している。彼らは、しかたなく、水族館飼育展示で不要になってゴミ捨て場に積み上げられたものから大きなサザエやハリサザなどの貝殻を探し出して、活用している。夜な夜な美しい紫色をした大きな紫オカヤドカリが宿替にやってくる。マーキングしていると、同じ個体が何度も出現することがわかる。彼らは、ヤシガニほど大きくはならないが、潅木に登って昼寝をすることもある。

そろそろ今年も終わりで１２月中旬だ。北西の冷たい季節風も吹きすさぶ。無事にかれらは大きなものもごく小さなものも、冬越しできるだろうか？

図.　2011年10月中旬に瀬戸臨海実験所北浜に出現したオカヤドカリ類の定着したばかりの幼体（最大個体）

5．事務局便り：

●事務局移転のお知らせ

海の生き物を守る会の事務局は、2 月 1 日以降、下記の住所に移転しました。それにともない、電話も変更になっています。ご注意下さい。なお、メールアドレスは変更ありません。

また、銀行口座なども変更ありません。

海の生き物を守る会　事務局
〒606-8413　京都市左京区浄土寺下馬場町 69 番地
電話＆FAX：０７５－７４１－６２８１
E-メールアドレス：hiromuk@mtf.biglobe.ne.jp

●この「うみひるも」は「海の生き物を守る会」のメールマガジンです。配信が迷惑と思われる方は事務局までご連絡ください。
●企画案などその他なんでも本会の活動に関することは、事務局あてにお寄せください。
●このメールマガジンは、毎月 1 日と 16 日の 2 回発行の予定ですが、都合によって遅延や中止もあります。配信を希望する方、送りたい方がありましたらアドレスをお知らせください。また、パソコンを使えない環境の方には印刷体でもお届けします。その場合は、郵送料をご負担していただくことがあります。
●このメールマガジンは転載自由です。海の生き物に関心を持っている方に広く読んでいただくために転送をお願いします。ただし写真を別の目的で使用する場合は事前にご連絡ください。海の生き物や守る運動についての情報など、また各地で行われている海の生物の観察会、研修会、その他の行事に関する情報もお寄せください。「うみひるも」のバックナンバーは、ホームページからダウンロードできます。
●本会は自然観察会や講演会を各地で実施しています。各地で開催を希望される方、開催をお手伝いできる方は、ご一報ください。また、各地の団体との共催も行います。ごいっしょに講演会や観察会をしたいと思われる団体からも提案をお受けします。
●本会への寄付をお寄せください。寄付も会費も同じ銀行口座「ゆうちょ銀行　口座番号：１０６１０－６６７３０２１　海の生き物を守る会」へお送りください。なお、送金される場合は、送金の内容について事務局にお知らせ下さい。

6．編集後記

記録的な寒さと大雪の今冬も、ようやく春の兆しが訪れてきました。辺野古沖の埋立にともなう環境影響評価書に、沖縄県の審議会と知事意見書が、環境保全は不可能という結論を出しました。環境面からは、辺野古沖に米軍基地を作ることは認められないという結論です。ようやく辺野古の海を守る一歩が動き出したようです。しかし、米軍基地の建設は環境面だけで決まるわけではありません。政治的には、環境を犠牲にしても基地を作るという政治判断もあり得ます。まだまだ気を緩めずに、3 頭しかいないとアセス評価書に書かれた日本のジュゴンや、大浦湾のアオサンゴ群集など貴重な海の自然を守るために、これからも活動していきましょう。（宏）

海の生き物を守るためになにかしたい！というあなたに！

会員募集中！

会員は本会の趣旨に賛同できる個人・団体とします。会費は個人 2,000 **円／年、団体** 20,000 **円／年。匿名による参加も可能です。会員は、当会の名前を使って各地で海の生物とその環境を保護・保全する活動を行うことができ、そのための助成金申請をすることができます。活動は当会の発行するメールマガジンなどを通して広く通知されます。入会希望の方は、事務局** hiromuk@mtf.biglobe.ne.jp **（向井）まで、氏名、住所、メールアドレスをお知らせください。**

メールマガジン『うみひるも』第 94 号

2012 年 3 月 1 日発行

発行＆編集人「海の生き物を守る会」

代表　向井　宏

〒606-8413　京都市左京区浄土寺下馬場町 69 番地

TEL&FAX:075-741-6281　メールアドレス：hiromuk@mtf.biglobe.ne.jp

ホームページ URL：http://www7b.biglobe.ne.jp/~hiromuk/index.html

銀行口座：ゆうちょ銀行　口座番号：１０６１０－６６７３０２１　海の生き物を守る会